会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和6年度第1回 高松市健康危機管理連絡会･高松市新型インフルエンザ等対策会議
開催日時	令和7年2月27日(木) 14時00分～15時00分
開催場所	高松市保健センター　5階会議室
議　　題	（1） 高松市感染症予防計画について （2） 高松市新型インフルエンザ等対策行動計画について （3） 高松市健康危機対処計画（感染症編）について （4） 食中毒・感染症の発生状況について
公開の区分	■ 公開　□ 一部公開　□ 非公開
上記理由	
出席委員	【会場参加】藤川会長、里石副会長、森委員、原委員 田中委員、小倉委員、白井委員、近藤委員 土田委員、花田委員、黒川委員、久保委員 山崎委員、那須委員、大西委員、村井委員 岸本委員、多田委員（計１８名）
傍 聴 者	１　人
担当課及び連絡先	保健医療政策課　839－2860

会議経過及び会議結果
会議を開会し、次の議題について報告及び意見交換を実施した。 1　開会 2　会長挨拶 3　報告事項 （1）高松市感染症予防計画について （2）高松市新型インフルエンザ等対策行動計画について （3）高松市健康危機対処計画（感染症編）について （4）食中毒・感染症の発生状況について 4　その他 【質疑・意見】 「報告事項（1）～（3）について」 （会長）香川県の新型インフルエンザ等対策行動計画について説明をお願いしたい。 （委員）令和６年７月に国の計画が策定されたことを受け、県の行動計画の改定を行った。具体的には、１１月に感染症対策連携協議会で協議し、１２月にパブリックコメントを実施、令和７年２月１０日に県の行動計画を策定した。 （会長）新型コロナ対応に関する環境保健研究センターの検査体制について、現場からの意見はどうか。

会議経過及び会議結果

（委員）先般のコロナ禍では、受付が混乱し、メモの内容と検体の本数が合わないことや移動中に検体が割れることがあった。今後は、検体を一本ずつビニール袋に入れるなど、対応の改善をしていただきたい。

（会長）コロナ対応について、保健所は電話が繋がりにくい状況であり、混乱することがあった。初動対応について、各病院はどうであったか。

（委員）みんなの病院では、初動段階は、患者も医療関係者も未知の感染症であったため、パニックになってしまったところがあった。新しい感染症であったとしても、重症度に合わせ落ち着いた行動ができれば良かったと思う。

（委員）県立中央病院としては、行政と日頃から連携していくことが重要だと考えている。日々連携することで、いざ有事の際に対応ができる。

（会長）他委員の意見はどうか。

（委員）警察現場では、感染者と接する機会も多く、職員の感染予防対策も重要であったため、署内でも感染予防対策の訓練を行っていた。保健所でも防護服の脱着訓練などを実施していると思うが、我々としても今後、保健所と連携を深めていきたいと思う。

（委員）看護協会では、ＩＨＥＡＴの派遣に関して、取組を実施しているが、現状潜在看護師は直接保健所に行った経験がなく、抵抗があるという意見があった。令和５年度からは県の委託を受けて、ＩＨＥＡＴ研修を実施しており、令和５年度は３８名、令和６年度は３４名の方に受講していただいたが、先ほどのような意見もあるので、各保健所の訓練などを実施する際に、ぜひ看護協会にも声をかけていただきたい。

（委員）消防現場について、コロナ禍では、消防車全１４台が、朝から次の日の朝まで、ずっと出動している状況であった。また、職員も感染をすることが多く、局内の人員のやり繰りに苦労した。

「報告事項（４）について」

（会長）食中毒の発生状況については、カンピロバクターが発生しており、注意が必要で、感染症に関しては、梅毒患者が増えており、引き続き警戒が必要である。
また、鳥インフルエンザが発生した際は、県主導のもと、適切に対応できるよう本市としても対応に努めているところである。

（そのほか、報告事項（４）に関して委員からの質疑・意見はなし）

「その他」

（委員）赤十字病院では、コロナ対応は勉強になった部分が多い。地震などの突発的なものと違い、コロナは少しずつ状況が変わってくるものなので、どのタイミングで災害として動くべきは判断が遅れることがあった。今回の経験は、今後、パンデミックが発生した際に、すぐに対応できるよう体制を整えるきっかけとなった。

（委員）医師会理事の立場で申しあげると、ＭＡＣ会議の開催は良かったのではないかと思う。医師会、看護ステーション、学校、消防、行政等、関係者が一同に集まる場で、迅速な必要な情報交換を行うことができた。
一方、国・県・保健所の役割分担が明確でないことがあり、決定に時間がかかることがあったように思う。
また、出口戦略として、いつ対応を解除するかが不十分であった。